

No.2018-20

# 英国中央銀行 0.25%利上げへ

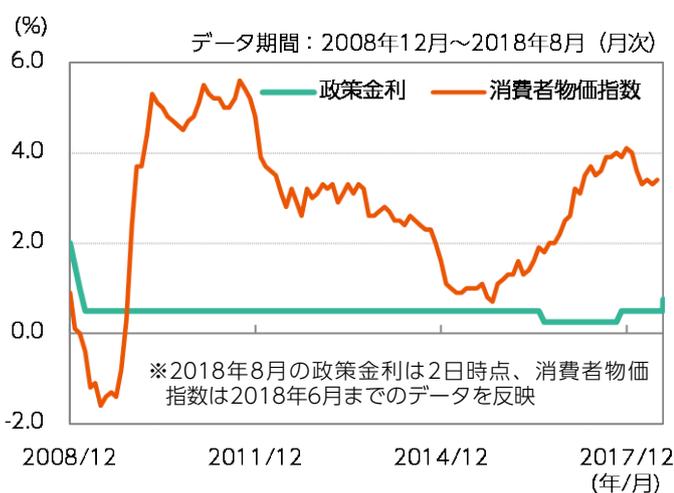
## 堅調な英経済を評価、金融政策正常化へ

- ▶ 英イングランド銀行（中央銀行）が政策金利を現行の0.50%から0.25%引き上げ、0.75%とした。
- ▶ 英国の経済は中央銀行の見通しに沿い順調であると評価し、インフレの事前抑制を図る。
- ▶ 欧州連合（EU）からの離脱は難航しており、結果次第では景気下支え策が必要となる可能性も。

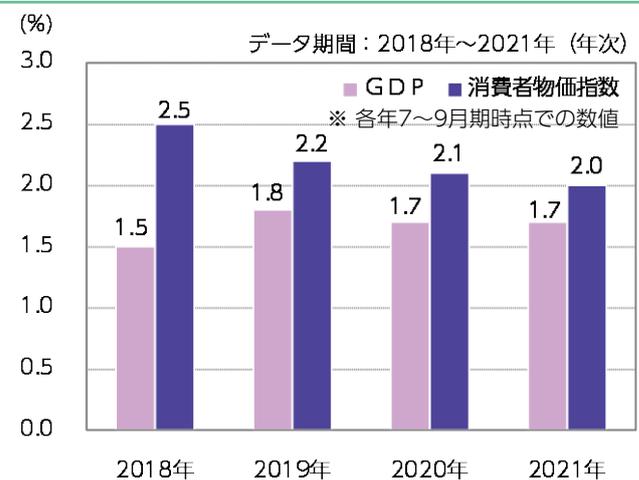
英イングランド銀行（中央銀行）は8月2日、政策金利を0.25%引き上げ、現行の0.50%から0.75%にすることを9対0の全会一致で決定しました。利上げは2017年11月以来9カ月ぶり、政策金利は2009年2月の1.0%以来、およそ9年半ぶりの高い水準となりました（図表1）。2016年の欧州連合（EU）からの離脱（ブレクジット）の是非を問う国民投票以降、英国の経済成長は鈍化傾向にあり、一部では離脱を巡る先行き不透明感が強い中での利上げを疑問視する見方もありました。中央銀行は英国の経済は見通しに沿い順調であると評価し、インフレ抑制のための利上げに踏み切ったようです。一方、今後については2019年に控えるEU離脱の明確な方針が定まらない中、一段の利上げは急がないという姿勢を示しました。

同時に公表された四半期のインフレ報告では、7～9月期（前年同期比）ベースで2018年と2019年の消費者物価指数（CPI）の上昇率見通しを2.5%、2.2%と、それぞれ前回5月から0.1ポイントずつ引き上げるとともに、2020年は2.1%と中央銀行が目標とする水準程度にまで落ち着くと予想しました。経済成長率については世界の成長率予想は下方修正しましたが、英国は概ね据え置きとし、7～9月期（前年同期比）ベースで2018年は1.5%、2019年は1.8%、2020年は1.7%になると予想しました。2020年は前回の予想を据え置いたものの、2019年については1.7%から上方修正しました（図表2）。中央銀行は、利上げは限定的かつ段階的になるとの文言を繰り返し、前回と同様に1年に1回程度の利上げで十分であるとの認識を示しています。しかし、EUからの離脱交渉が難航していることから、今後の交渉の結果次第では利下げをなどの景気下支え策が必要となるかもしれません。

図表1：2017年11月以来9カ月ぶりに利上げを実施



図表2：2019年の経済成長は上方修正された



※英国の政策金利と消費者物価指数（前年同月上昇率）の推移

GDP：国内総生産

※ 経済成長および消費者物価（前年同期比上昇率）の予想推移

出所）図表1はブルームバーグ、図表2はイングランド銀行のデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成



# 週間市場レポート

(2018年8月6日～8月10日)

## (1) 日本の株式・債券市場

### 株式市場の動き

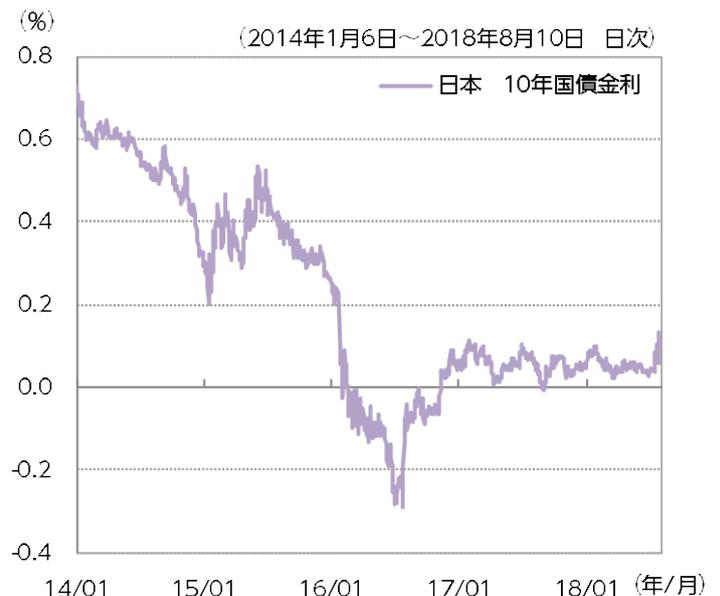
- 先週の日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で下落となりました。中国・上海株式相場や米株式相場の反落を受け、週を通じて下落基調で推移しました。10日（金）の午前中に日米政府が貿易協議（F F R）を開催したものの、合意できず協議を進めることとなったことから、週末は1ヵ月ぶりの安値を付けました。（週末引け値：22,298.08円）
- 週間では、日経平均株価は1.01%の下落、東証株価指数は1.29%の下落でした。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

### 債券市場の動き

- 先週の日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で小幅に低下となりました。日経平均株価の下落を受け、価格変動が小さく相対的に「安全資産」とされる債券は買いが優勢となりました（利回りは低下）。（週末引け値：0.101%）
- 週間では、0.009%の低下となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

## (2) 米国の株式市場

### 市場の動き

■ 先週の米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で下落となりました。好決算を受け金融株を中心に買われてスタートしました。週央以降は、決算発表が一巡し大きな材料もない中、トランプ米大統領がトルコへの関税引き上げを示唆し、同国経済の悪化が懸念されると、世界的にリスクオフの動きが優勢となり売られました。（週末引け値：25,313.14ドル）

■ 週間ではNYダウは0.59%の下落となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

## (3) 外国為替市場

### 市場の動き

■ 先週の米ドル/円相場は、前週末比で小幅に円高米ドル安となりました。米中貿易摩擦が激化するとの警戒感が再び高まり、相対的に「低リスク通貨」とされる円の買いが優勢となりました。週末は、ユーロやトルコリラに対する円高加速が対ドルの円買いに波及し、円高米ドル安が進行しました。（週末引け値：110円90銭～111円00銭）

■ 週間では米ドル/円は0.38%の円高、ユーロ/円は1.70%の円高となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

## 【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

### <設定・運用>



**ニッセイアセットマネジメント株式会社**

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>